

## 成果の説明書

(氏名) 土谷岳史	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>2021年1月29日には2020年度第6回ORIS国際シンポジウム『統合と移民のその後：欧米比較～新型コロナ禍による影響を踏まえて』に登壇し、「シェンゲン協定とCovid-19」と題して報告を行った。この報告をもとに「コロナ禍とシェンゲン・ガヴァナンス：EU国際行政と移民排除の継続」を執筆し、『高崎経済大学論集』第64巻第1号（2021年8月）に掲載した。</p> <p>2021年5月29日にグローバルガバナンス学会第12回研究会で「EUにおける人の移動の政治とイギリスの移民政策」と題して報告を行った。これは2020年度に発表した報告書『EUと新しい国際秩序—Brexit後のEU、そして世界—』掲載の拙稿をもとにしたものであり、本報告書は改定されて須網隆夫、21世紀政策研究所編『EUと新しい国際秩序』として日本評論社から2021年11月に刊行された。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>コロナ禍のなかで受講生が濃厚接触者となったり、軽い体調不良となったりしたときのために講義のアーカイブを作成した。就活等のやむを得ない事情で講義を欠席した受講生を含めて、不利とならないような講義を提供した。</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>2021年度後半からある学会のプロジェクトが始まり、それに参加している。2022年度は一定の方向性を示すようにしたい。</p>	